

# 1 自己評価及び外部評価結果

# 有限会社 カワムラ ( グループホーム 燦燦 とざわ )

事業所番号	0672500600		
法人名	有限会社 カワムラ		
事業所名	グループホーム 燦燦 とざわ		
所在地	山形県最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野2096-1		
自己評価作成日	平成21年11月 2日	開設年月日	平成17年 3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日楽しかったと思えるようなケア」をモットーに職員全員日々努力しております。個別ケアにも力を入れており、一人一人に合った支援を心掛け、利用者様と職員の信頼関係を大切にしています。又、行事等も沢山取り入れ地域の方々との交流の場を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや意向を、職員が極力把握しようと努力をして、それに基づいたケアがされている。又、事業所は地域との交流を活発に行っており、花見や、事業所内でのミニサロンの開催など、利用者が地域での生活の延長として、生活が送れるよう、取り組みがされている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1-19-6-2F		
訪問調査日	平成21年12月 1日	評価結果決定日	平成22年 1月 4日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で作り上げ、又いつでも理念を見て共有し実践出来るようホールに掲示しています。	法人の同事業所の理念を参考にして全職員で検討して独自の理念を作って掲げている。職員、利用者、家族にも周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通し地域の方々とのつながりを大切にしています。又、月1回ミニサロンを実施しており地域の方々との交流を深めています。又、リハビリ機器も取り入れ介護予防に努めています。	町内の小売店と相談して「移動スーパー」の形で利用者が買物できるようにしている。又毎月地域の方々を対象にミニサロンを開催し地域の方々との交流を深めている。年間行事には毎月ボランティアのイベントが予定されて民謡会、中学生の草むしり等地域の人達との関係は密着している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回ミニサロンを開催し、地域の方を招き一緒にお茶を飲み話をしたり、歌や踊り等のレクリエーションをしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回では議題が少ない為3ヶ月に1回とし実施しており、近況報告を話し合い出されて意見をサービスの向上へ活かせるよう努めています。	行政等との調整がつかず、今期は9月が初回の会議となっている、運営規程を作成し、スケジュールを立て今後の取組みに関しての検討を現在行っている。	行政との話し合い、テーマ設定等に関し、更に検討を進め、定期的な開催と、会議を通じた地域との連携を更に深めるような取組みを今後期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回地域包括支援センター主催の連絡調整会議があり、勉強会や他施設の方々との情報交換をしています。	2ヶ月に1回連絡調整会議に参加して交流している。役場の方が常に立ち寄って利用者の状況を見てくれるので、相談しやすい関係である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全員共通理解し、徹底しています。見守り重視の体制で職員全員頑張っています。	夜間は施錠している。見守りの体制が基本である。又通所介護を実施しているので、短期は入所後の利用者を見て職員は身体拘束とは・・・事例で理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われていないか、職員一人一人注意を払っており、虐待が決して行われないよう防止を努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加はしているが、現在必要としている方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項を十分に説明し、又変更があった場合には、その都度ご家族様へ説明、報告しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、ご家族様よりご意見等あった場合は、その都度職員全員で話し合い改善に努めています。	家族が遠方にいる利用者が多く、直接意見が聞きづらい面もある。通院時などで家族が来られる時には極力聞き出す努力をしている。意見としては少ないが、意見があった時は全職員で改善する話し合いをしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日申し送り時、又は毎月ミーティングを開き職員の意見や提案を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績等把握し、昇給しなどの対応をし各自向上心を持って働けるような職場環境を作るよう努めています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が様々な研修へ参加できるよう機会を確保しており、ミーティング時報告会・勉強会を開いています。又資格取得へ向けて皆さん頑張っています。年度初めに職員一人一人の目標を立ててもらい、質の向上へとつなげています。	年度初めに「利用者が笑顔で生活する環境づくり」をテーマに一人一人目標を立てている。又外部研修に参加した時はミーティングで伝達研修を行っている。又、研修には1人2・3回参加している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他同業者と交換実習をしたり、見学に行ったり、祭りへ参加させて頂いたり、交流を深め、情報交換等しサービスの質の向上へとつなげています。	県のグループホーム協議会に参加又、交換実習に参加して交流している。又月1回、新庄地区で「スクラム」(事業所)で勉強会に参加して情報交換している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等にて不安な事・求めている事を詳しく聞き受け止めており、第二のホームになるべく信頼関係の構築に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談等にてご家族様の思いもしっかり受け止め家族関係の維持を図りながらお互い良い方向にいくよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族がその時点で今何を必要としているかを見極め対応し、他サービスとも十分連携を図っているよう努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き傾聴・受容・共感の姿勢を忘れず、日々喜怒哀楽を共にし利用者のペースに合わせて支援しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の交流を大切にし、又電話等での報告も密に行いご家族様からの要望等も聞き、ご家族様とも信頼関係を築き一緒にご本人様を支えていけるよう努めています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会も多々あり、又馴染みの場所にも機会を作り行けるようにしており、とても喜ばれています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過される方は少なく、仲の良い入居者同士会話が弾まれておりとてもいい雰囲気です。皆で話が出来よう職員が間に入ったりなどし、不安感・孤独感を与えぬよう支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り合ったり見舞いに行ったりなどし、関係性の継続に努めています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いや意向を聞くことを大切にしております。やはりお家へ帰りたく願う方もいましたが、ここが一番いい、ここでずっと暮らしたいと言ってくれるようにまでありました。	日々の生活の中で本人が何をしたいか、楽しいことは何か等と話して一人ひとりの思いや意向について関心を持って把握する努力をしている(センター方式活用)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネやご家族様より事前に情報を得て、又本人より日常会話の中でこれまでの暮らし等を聞き把握しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日詳しく利用者様の現状等記録し、職員全員が把握出来るように努めています。又特変があった場合は申し送りやミーティングで話し合っています			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者との話し合いで出た意見・要望など反映し介護計画を作成しています。状態が変化した場合随時見直し変更しています。	モニタリングは6ヶ月毎に行われているが家族の意見や要望、利用者の変化がなくとも毎月新鮮な目で見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を詳しく個別記録へ記入し職員全員が把握できるようにしています。毎日介護計画記録も作成しています。又介護計画の見直し時期になるとその方の介護計画について職員全員で話し合いをしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より協力を頂き、定期的にボランティアを依頼したり、ミニサロンや行事を通して地域との交流を図り安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう努めています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回医師の往診があり、その都度一人一人に指示を頂き、利用者・家族ともに安心されています。	協力医は月1回往診、看護師は週1回健康管理を行い、健康データ管理し、緊急時はオンコール体制で連絡して主治医や救急医療機関に連絡している。原則としてかかりつけ医の受診、内服薬の受け取りは家族が行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師より来て頂いており、入居者様の状況を報告したり相談したりし、日常の健康管理や支援を受けています。又特変があった場合は、看護師へ連絡を入れ対応して頂いています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のホームの方針は、家族にも話をし共有出来ている。現在終末期に向けたケアは行っておらず。	重度化、終末期に向けた方針は入所時重要事項説明書の補足として説明、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救命救急士より指導を受けています。応急手当指導員の講習を受講した職員もおり、今後他の職員も受講し実践力を身につけていきたいと思ます。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、避難訓練を実施し指導・助言を頂いています。又去年より地域の方を交えた避難訓練を実施しています。今年度中に夜間を想定した訓練を実施する予定です。	事業所「とざわ消防計画」のもと年2回防災訓練を予定している。今年は5月と2月に予定し、12月には夜間想定して避難訓練を計画している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に関する情報を守る為職員・パート職員一同契約書に、署名・捺印しており、プライバシーの確保を徹底しています。	「その人の守るべき情報は決してもらさない。」人権意識を徹底する為、職員には採用時に契約書に署名、捺印してもらい、特に意識してもらうようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアでは、何をしたいか・何を食べたいか等本人の希望を聞き、担当職員と実施しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切に、日々の暮らしがその人らしいものになるよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好みの服を選んで着たり、自分で選ぶのが難しい方は声掛けし一緒に準備しています。理・美容は本人の好む店を利用されており、来店が難しい方はホームへ来て頂き行っています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様からも食材の下ごしらえや切り方、盛り付け等を一緒に行って頂いています。下膳や茶碗拭き等の片付けも行って頂いています。又、行事食などでは、バイキングや弁当を作り皆さんとても喜ばれています。	献立は週単位で大まかに(肉・魚)として、詳細はその日の担当者にまかせている。行事の時(花見、クリスマス)はバイキング方式や弁当を作り利用者に喜ばれている。調理への参加はひとりひとりのできることに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて食事を作り、毎食の食事・水分摂取量をチェックし確保に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや誘導をし実施しています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ間隔が長い方には声掛け・誘導し、失禁を少なくしその結果布パンツへ変更した方もいます。	排泄チェック表を利用している。基本的にはトイレでの排泄、日中は一部リハパンを使用して夜間はポータブルトイレ等を利用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と運動や散歩など体を動かす働きかけ等に取り組んでいます。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人週3回入浴していますが、曜日が決まっており一人一人の希望やタイミングに合わせてというところまで行っていないのが現状であり、今後の課題でもあります。	午前中は通所介護の利用者の入浴。午後は16:00まで入浴している。週3回入浴で曜日は決まっているが必要に応じて柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は各自居室で休まれたり、皆のいるところを好む方はソファで休まれたりと、その方に合った方法で気持ちよく休息出来るようにしています。又夜は早めに休まれる方もいたり、ゆっくりとホールや居室でテレビを見てから休まれる方もいます。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の薬の説明書をファイルに綴じて一人一人見て理解しています。薬は鍵のかかるロッカーへ個別に管理し、医師の指示通りに服用出来るよう支援しています。投与薬は毎食時ご本人の前に置いたり、手渡しし服用確認しています。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割があると、皆さんイキイキとする為、洗濯物たみ・茶碗拭き・掃除・畑仕事等々、力を活かせるような役割を様々準備しています。又、レクや運動、散歩、ドライブ等一人一人楽しめることを準備し、喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課とし、楽しめる方もいます。又こまめにドライブや買物等外出出来る時間を作り、気分転換して頂いています。年に2回小旅行を実施しており普段行けないところへ行ったり、個別ケアでもそれぞれ様々な所へ行き楽しまれています。	家族も一緒に庄内、東根等に花見、小旅行(年2回)に出掛けている。散歩を日課としている利用者もいる。又事業所の前で日光浴しながら話をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理出来る方は自分で持って頂き、買い物時に自分のほしいものを買って頂いています。管理できない方は、金庫に預かり移動スーパーや外出時に欲しいものを自分で選んで頂き、出来るだけ自分で支払いができるよう支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時電話が出来るようにし、携帯電話を使用しご家族様と連絡を取り合っている方もいます。手紙や年賀状等のやり取りも出来るよう支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く自然の陽がたくさん入り、風通しも良く快適に過ごせます。ホールや玄関には生活感や季節感を取り入れたものを飾り、居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。毎月、入居者様方との共同作品も作成し飾っています。	外の景色が一面に見え、広々とした中で居心地のいい環境作りがされている。又毎月壁画作りを楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席に座り皆で話したり、ソファーに座りテレビを見たりと思い思いに過ごせるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たたみの居室やホールにたたみのスペースを取り入れ、そこでお茶飲みをしたり、冬にはコタツを置きコタツに入って話をしたり昼寝をされる方もいます。又、各居室には入居者様の使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂き、居心地良く過ごして頂けるような工夫をしています。	各自テレビ等を持ち込み、それぞれ利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての要所に手すりが設置されており、段差もなく全てバリアフリーな為、安全な生活をおくれ又、車いすの方も自走や歩行運動を安全に行えます。各トイレの場所への表示や居室へは色々な形のネームプレートを飾るなど工夫行っています。			